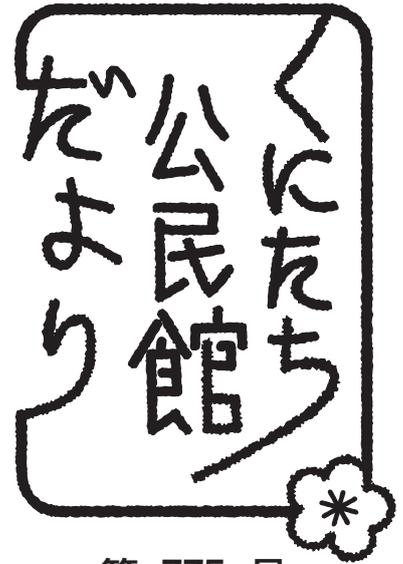


【特集：性教育講座】

講座参加者の感想とこれから始まる講座のご案内

性を学ぶことはよりよく生きること ～「包括的性教育」のススメ～



第 775 号

2024年 9月 5日

(令和 6年)

「くにたち公民館だより」

デジタルブック ▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

学ぶことは眼を開かれること

城所 久恵

2月から3月にかけて性教育講座『性を学ぶことはよりよく生きること～「包括的性教育」のススメ～』（全3回）が開催されました。

1回目は「包括的性教育」とはどのようなものかという総論を学び、2回目、3回目は幼稚園と小学校、中学校で性教育の実践を行っている講師の方からお話を伺いました。

今回の特集では、前回の講座に参加した方の中からお二人の感想をお届けするとともに、これから開催する性教育の講座をご案内します。



第1回講師、コーディネーター：
渡辺大輔さん（埼玉大学）

市内の子ども園に勤務しています。在職園では以前から保護者の方が性教育に関心があり、講師を招いて子どもたちに話をしてもらったこともありましたが、私の中でその内容や必要性等に引っ掛かりが生まれました。本を色々と読むうちに必要性は理解しましたが、

まだ腑に落ちないこともある中で、園の保護者の方々と性教育をテーマとしたディスカッションをする場を設けたこともあり、今回改めて学んでみようと思いい参加しました。3回講座すべてに参加しましたが、本で文字面を読むのとは違い、



保護者、教育関係者、学生など、性教育に関心のある様々な立場の方に参加していただきました。

生の声で聞くとは如何にこの性教育の必要性が高いのか、それは何故なのか、また、何とかして学びの機会を創出していこうとしている講師の方々の熱を感じました。
日本ではあえて「包括的」を付け加えることで、今までの何となくイメージの良くない性教育を実は「人権ベース」の広範な内容を扱う教育であることを示していることとして、また、何よりも大切な一人ひとりが様々な権利を持っており、自己決定が出来ること。しかし「学ばなければ」その権利があることさえも知らずに生きてしまうこと。学び続けることで、その力を養い続けるということ。日本特有の土壌では自己決定するよりも、他者や周りの状況で決められてしまう雰囲気があることなど、大人自身も、学び続け、自己決定する力をつけていく必要性を痛感しました。
また、日本と世界の流れを比較

次ページに講座参加者の感想のつづきと9月からの講座案内を掲載しています。

する視点を持つことも大切だと思いましたが、知らず知らず育った文化圏での先人観や思い込み、固定観念で物事を捉えて判断してないだろうか。時代が変化しても国や文化が違っても、子どもたちへ伝えてゆく大切なことは同じではないかと思えます。その為には大人も心を開いて学び続け、本当に大切なことは何かを識ることが大切かと思えます。「包括的性教育」とは実は新しいものではなくて、元々大切にされてきたものの再発見なのではないかと思えました。ぜひ、周りの大人たちと共有していきたいと思っています。

令和6年2月17日、24日、3月2日開催

講座各回のテーマ

第1回「包括的性教育ってどういうもの？」

第2回「幼児期編：幼児期にこそ育みたい
“からだ観”」

第3回「思春期編：思春期の子どもたちに
伝えていきたいこと」



講師関連本 (公民館図書室で借りられます)

私はちょうど一年ほど前に、包括的性教育に出会い、感動し学びはじめた大学二年生です。今回、「包括的性教育の講座がなんと公民館で行われる！」というビッグニュースを耳にし、人生ではじめて公民館講座に足を運びました。皆さんは、「性教育」にどのようなイメージがありますか？「エロい」「なんか恥ずかしい」など、マイナスのイメージを持つ方が多いかもしれません(私もそうでした)。その背景には、学校教育で行われる性に関する授業の空気感や社会全体の性へのタブー視があるのかもしれない。しかし、よく考えてみると、身体というものには命に直結します。自分の身体について知り考えることに抵抗を感じてしまう構造は、なんだか少し



第3回講師：樋上典子さん (関東学院大学ほか、元公立中学校教員)

悲しいと思います。それを打開するのが、包括的性教育だと考えています。包括的性教育が従来の性教育と違う点は、①ジェンダー平等や性の多様性など、様々な角度で性(ジェンダー・セクシュアリティ・セックス)について学ぶこと、②人権を基盤とすること(これ特に大事！)、③子どもたちの成長段階に合わせ、段階的に学んでいくことです。 今回の講座では、一回目に概要、二・三回目に学校での実践事例とそれを受けた子どもたちや教育者の成長について教えていただきます。実践を通して学校全体の人権意識が変化し、本当の意味で「みんな」が過ごしやすい環境をつくれると実感しました。

講座担当者から
私自身も子育てをする中で、子どもに性をどう伝えていけばいいのか悩んでいた時に「包括的性教育」という言葉に出会いました。包括的性教育は人権を基盤とした性についての学びを通して、誰もが幸せに生きることを目指しています。生まれてから死ぬまで私たちの生き方に深く関わってくる性。地域のみなさんと一緒に学び続けていきたいです。



第2回講師：北山ひと美さん (元和光小学校・幼稚園園長)

参加して得た気づきをひとつ。講座を受けている皆さんは、講義を深く聞き「今後親として子どもにどのような性教育をすればいいのか」「包括的性教育を推進するために国や地域にどのように働きかければいいのか」を熱心に考えておられました。生涯にわたって学習することを止めず、知識や考え方をブラッシュアップされる姿勢に刺激を受け、私もそうなりたいと思いましたし、公民館は学び続けられる良い環境だと思いました。

参加者募集

<性教育講座>

性を学ぶことはよりよく生きること～「包括的性教育」のススメ～ 模擬授業【思春期編】

性については、「子どもにいつ頃から、何をどのように伝えていけばいいのかな……」と悩んでいる子育て中の方も多いのではないのでしょうか。現在子育て中の親世代は、学校などで性についてしっかりと学ぶ機会が少なかつたため、性教育について悩んだり、戸惑うことが多いのかもしれない。

今回の講座では、実際に中学生が学校で受けている各テーマの授業(各回50～60分)を大人が中学生になったつもりで受けてみます。模擬授業の中で先生から話を聞いたり、グループ内で話し合ったりすることを通して、様々な気づきがでてくるのではないのでしょうか。模擬授業後は、質疑応答の時間を設け、授業を受けての感想や性教育について日頃感じていることなどを参加者同士で共有し合う時間にしたいと思います。

まずは大人が性や性教育について学び、子どもたちにも伝えていけるようになりませんか。性別や年代を問わず、たくさんの方のご参加をお待ちしています。

- ◆第1回 9月29日(日) 朝10時～12時 「模擬授業 生命誕生」
- ◆第2回 10月6日(日) 朝10時～12時 「模擬授業 恋愛とデートDV」

講師 渡辺 大輔(埼玉大学) 樋上 典子(関東学院大学ほか、元公立中学校教員)

ところ 公民館 3階講座室
対象 子育て中の方、性教育に関心のある方
定員 30名(申込先着順)
申込先 9月11日(水)朝9時～
電話またはホームページより申込



来年3月2日(日)、9日(日)に性教育講座【幼児～小学校低学年編】を開催予定です。詳細は、2月5日号の公民館だよりに掲載します。こちらもぜひチェックしてください。

〈哲学講座〉

長谷川宏さんと読む 『日本精神史 近代篇 下』

講師 長谷川 宏 (哲学者)

ヘーゲルの翻訳や哲学研究で多くの著作がある長谷川宏さんを講師に、2023年10月に刊行された自著『日本精神史 近代篇 下』をテキストとして「哲学講座」を開講します。

軍国ファシズム下における表現から、それに対する抵抗、そして戦後の混乱と貧困にいたる精神のありようを経て、大衆文化や高度経済成長下の運動、時代に抗うさまざまな表現に光をあてます。

人々の作り出した近代における壮大かつ激しい精神の大河を、5回にわたって探求します。

〈長谷川さんの著訳書〉

ヘーゲル『精神現象学』の翻訳でドイツ連邦政府翻訳賞受賞。『日本精神史 近代篇 上』『日本精神史 近代篇 下』(講談社選書メチエ)、『高校生のための哲学入門』(ちくま新書)、『ことばをめぐる哲学の冒険』(毎日新聞社)、『双書哲学塾 生活を哲学する』(岩波書店)、『ちいさな哲学』(春風社)ほか多数。

※テキストの『日本精神史 近代篇 下』(講談社選書メチエ)をご用意ください。

とき 9月17日、24日、10月1日、8日、15日(全5回)
毎週火曜日、昼2時～4時
ところ 公民館 3階講座室
定員 27名(申込先着順、全回出席できる方)
申込先 9月7日(土)朝9時～ 電話で公民館へ

〈公民館開館70周年に向けた学習会〉

「くにたち公民館だより」を読むつどい —第1回：集約版I(1956～72年)を中心に—

くにたち公民館は、2025年11月に開館70周年を迎えます。そこで、今年度からくにたち公民館のあゆみを振り返る学習会を開催しています。今回は「くにたち公民館だより」集約版I(1956～72年)を、参加者のみなさんと読み合い、感想などを共有する会にしたいと思います。

当時の「くにたち公民館だより」からは、高度経済成長期の日本の社会状況や1950～60年代の国立町公民館の熱気あふれる活動の様子が見えてきます。

公民館の歴史に触れたことのない方も一緒に、ページをめくりながら学び合えたらと願っています。どなたでもお気軽にお越しください。

※「くにたち公民館だより」集約版Iをお持ちの方は、ご持参ください。お持ちでない方は貸出します。

とき 9月17日(火)
夜7時～9時
ところ 公民館 3階講座室
定員 25名(申込先着順)
申込先 9月6日(金)
朝9時～
電話で公民館へ

「くにたち公民館だより」
1970(昭和45)年4月号より→
当時の公民館のキャッチコピー
「たのしい集りとふかい学習を」



〈文章創作／心のライティング〉

自分を知り、表現し、ともに分かち合う 文章創作ワークショップ

講師 大塚 敦子 (ジャーナリスト、ノンフィクション・写真絵本作家)

自分の本当の気持ちってなんだろう？私にとって大切なことって？……毎日を過ごすなかでふと、立ち止まることはありませんか。

この講座では、様々な場所で「心のライティング」(書くことで自分を知り、よりよく生きる糧とすること)のワークショップを実践されている大塚さんを講師に、その日の題材によって散文や詩などを創作するワークショップを行います。

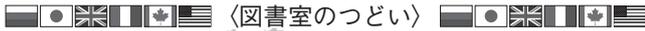
書くことで、今まで気づかなかった自分の一面や、飾らない素直な心が見えてきます。大切にしているのは、上手な文章を書くことではなく、書く楽しさを味わってもらうこと。そして、一人で書くのではなく参加者同士で共有することで、様々な価値観を知り、自分の世界をちょっぴり広げてもらうこと。書いたものを他の人と共有するかどうかは自由ですので、お気軽にご参加ください。

内容 お互いを知り合う、自分の人生を振り返る
自分を知る(1)よりよく自分を知る
自分を知る(2)自分を表現する
自分を知る(3)自分をケアする、
他者を想像する、そしてこれから など

※内容は参加者のペースを見ながら途中で変更になる可能性もあります。

とき 9月27日、10月11日、25日、
11月8日、22日、
12月6日、20日(全7回)
すべて金曜日夜7時～9時
ところ 公民館 3階集会室
定員 12名
※応募多数の場合、初めての方優先
持ち物 ノート、ペン
申込先 9月11日(水)朝9時～
電話で公民館へ





6カ国転校生 ナージャの発見

お話 キリーロバ・ナージャ (クリエイティブ
・ディレクター、コピーライター、絵本作家)

ナージャさんはソ連(当時)に生まれ、両親の転勤に伴い6カ国(ロシア、日本、イギリス、フランス、アメリカ、カナダ)へ転校し、それぞれの現地校で学齢期を過ごします。使う筆記用具の種類、座席の配置、ランチの過ごし方、授業の様子や、児童・生徒に求められることも国によって全く異なりました。転校する度に「普通」がめまぐるしく変化していく日々を送っていたナージャさんは「教育にも、自分らしさにも正解はない、違いがあるだけ。違いから自分の個性や強みを見つけていくことが大切」とおっしゃいます。

今回は、ナージャさんが体験した各国の学校の様子や、様々な価値観の中でどのように自分らしさを発見したのかお話いただきます。

〈ナージャさんの本〉

表題作(集英社インターナショナル)、『ナージャの5つの学校』(大日本図書)、『からあげビーチ』、『ヒミツのひだりききクラブ』(共に文響社)ほか

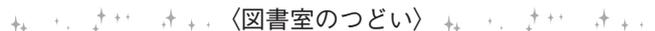
とき 10月18日(金)夜7時~9時

ところ 公民館 地下ホール

定員 70名(申込先着順)

申込先 9月17日(火)朝9時~

電話またはホームページより申込



この惑星の声を聴く ~レンズをとおした鼓動から~

お話 高砂 淳二 (写真家)

地球温暖化による生態系の変化は著しく、地球・動植物、人の生活に大きな影響を与えています。

今回の講座では、地球をくまなく旅する写真家の高砂さんより、繊細なバランスのもとで調和する地球からのメッセージを作品と共にお届けします。

高砂さんのガイドのもと、大地や海の鼓動・萌え出す恵み、空の向こうにつながる宇宙に思いを馳せ、しなやかな地球の仕組みに守られて暮らしていることを思い出してみませんか。私たちにできる一歩を一緒に考えてみたいと思います。

〈高砂さんの経歴・本〉

ロンドン自然史博物館が主催する、自然写真の世界最高峰といわれる「Wildlife photographer of the year 2022」「自然芸術部門」で日本人初最優秀賞を受賞。

海の環境NPO法人(The Oceanic Wildlife Society)理事。みやぎ絆大使。

著書に表題作(クレヴィス)、『PLANET OF WATER』(日経ナショナルジオグラフィック社)、『Children of the Rainbow』(小学館)他多数。

とき 10月15日(火)夜7時~9時

ところ 公民館 地下ホール

定員 70名(申込先着順)

申込先 9月12日(木)朝9時~

電話またはホームページより申込



くにたち郷土文化館開館30周年、公民館開館プレ70周年企画



文学のなかの国立とあの頃



講師 矢野 勝巳 (沿線文学研究家)
安齋 順子 (くにたち郷土文化館学芸員)

国立を描いた現代文学作品の紹介を通して町の特徴を考察するとともに、散策を通して作品と現実の町との呼応関係を見ていきます。特に多和田葉子の芥川賞受賞作『犬婚入り』の舞台となった1960年代中頃から70年代前半の町が大きく変貌する時代を中心に、変遷を振り返ります。
※この講座はくにたち郷土文化館と連携して実施します。

〈矢野さんの本〉
『文学する中央線沿線』(ぶんしん出版)

定員 30名(申込先着順)

*原則2回とも出席できる方

申込先 9月18日(水)朝9時~

電話またはホームページより申込



第1回 座学 文学のなかの国立

とき 10月19日(土)昼2時~4時

ところ 公民館 3階講座室

※特に多和田葉子『犬婚入り』(講談社)を詳しく取り上げますので、事前に読んで来られるとより興味深く参加できると思います。

第2回 散策 国立の町の変遷と生活史を知る

*原則雨天でも決行予定です。

とき 11月2日(土)朝10時~昼1時

集合 朝10時 JR南武線矢川駅北口バスロータリー前
コース くにたち郷土文化館での講義を入れながら、『犬婚入り』の舞台、国立の南部地域を巡ります。谷保駅解散。

*同時期に郷土文化館にて国立市の彫刻家、故・關敏さんの展覧会(第2回の一部で展示解説あり)や、市民芸術小ホールにて多和田葉子さん出演のイベントなどを開催予定です。詳細は『オアシス』8・9月号をご覧ください。

—11月分(ロビー12月分) 会場調整会のお知らせ—

申込書のポスト投入期間	9月7日(土)~26日(木)
公用使用の貼り出し	9月11日(水)頃
予約の重なりがあった団体の掲示開始日 (公民館HPにも掲載)	9月28日(土) ▶重なり状況 
会場調整会	10月5日(土)朝10時~ 会場：地下ホール

※会場調整会は朝10時までに受付を済ませてください。

会場申込の詳細はホームページをご確認
いただくか、公民館窓口にお問合せくだ
さい。



申込方法詳細

★12月以降の予定

使用月 (ロビー)	申込書の ポスト投入期間	重なり団体 掲示日	会場調整会
12月(1月)	10月5日(土)~ 10月24日(木)	10月26日(土)	11月2日(土)
1月(2月)	11月2日(土)~ 11月28日(木)	11月30日(土)	12月7日(土)
2月(3月)	12月7日(土)~ 12月19日(木)	12月21日(土)	12月28日(土)
3月(4月)	12月28日(土)~ 1月23日(木)	1月25日(土)	2月1日(土)

★「申込書」を提出していない団体の予約方法

- ・2階事務室での受付…会場調整会当日の午後2時~
 - ・電話での仮予約…会場調整会当日の午後3時~
- ※受付期間：午前9時~午後5時(月曜、祝日、年末年始を除く)



監督 ロブ・ライナー 原作 スティーヴン・キング
出演 リバー・フェニックス、ウィル・ウィートン、
コリー・フェルドマン、ジェリー・オコネル ほか

名曲「スタンド・バイ・ミー」をはじめオールディーズ
の名曲の数々が画面を彩る、青春映画の名作。

オレゴン州の片田舎を舞台に、森の奥に行方不明になっ
た少年の死体があるという噂を聞き、死体探しの旅に出た
4人の少年たちのひと夏の冒険を描く。

〈シネマトーク〉

「オールディーズ映画の最高峰」

島敏光(映画レポーター、エッセイスト)

上映終了後に、映画レポーターでありエッセイストの島
敏光さんに『スタンド・バイ・ミー』を彩った劇中音楽
や、夭逝した伝説のスター、リバー・フェニックスについ
てお話しいただきます。

と き 9月22日(日) 昼2時~5時(開場1時30分)

ところ 公民館 地下ホール 定員 70名(申込先着順)

申込先 9月10日(火)朝9時~

電話またはホームページより申込

*事前申し込み制となっています。

必ず電話、ホームページのいずれかの方法に
て事前にお申し込みください。



〈くにたちブッククラブ〉 —たしかにそこにいた「わたし」のこと— 太宰治『ヴィヨンの妻』(新潮文庫)

講 師 尾崎 名津子(立教大学・日本近現代文学)

講座では毎回、取り上げた作品を
あらかじめ読んできて、感想を参加
者で共有し、講師に作品の解説をし
ていただきます。年に8回行っており
ますが、1回だけの参加も大歓迎
です。どうぞお気軽にお問合せくだ
さい。



太宰治『ヴィヨンの妻』
(新潮文庫刊)

と き 9月12日(木)

夜7時半~9時半

ところ 公民館 3階講座室

※昨年度と部屋が変わります。

定 員 30名(申込先着順)

申込先 電話またはホームページより申込

年間予定など、詳しくはホームページを
ご確認ください。



公民館運営審議会報告

8月20日(火)第34期第22回定例会
を開催。委員13名、館長、職員2
名出席。傍聴人3名。
前回議事録確認、議事録修正あり。

報告事項

公民館だより編集研究委員会
社会教育委員の会、東京都公民館
連絡協議会より報告。公民館だよ
り編集研究委員より、8月号にお
けるカラー記事への声や、活動の
まとめとしての座談会を8月末に
実施予定との報告。社会教育委員
の会より、諮問「国立市の生涯学
習・社会教育分野におけるICT
活用による学習機会充実の可能性
について」答申案作成に向けての
活動などの報告。東京都公民館連

審議事項

館長諮問「公民館の運営や事業
に『市民の声』を活かしていくた
めの方法や工夫について」の答申
作成について審議を継続。これま
での審議を踏まえ作成された答申
案について、提案事項や各章の記
述における意見交換や語句の修正
などを行った。

12月号公民館だよりに掲載予定
の「第34期公民館運営審議会活動
のまとめ」の記事における内容の
構成案が正副委員長より出され、
それに対する検討と執筆担当の割
り当てがなされた。

次回9月10日(火)夜7時15分
から講座室。傍聴歓迎。(森本)

今月の公民館 (9月~10月前半)

- 9月13日(金) 昼~ 多文化共生講座「やさしい日本語を学ぼう」
- 13日(金) 夜 中央図書館開館50周年・公民館開館70周年企画「秋のナイト・ライブラリー」
- 15日(日) 昼 図書室のつどい「文学作品を(ケア)で読み解く」
- 15日(日) 昼 版画をつくってみよう! —プレス機体験ワークショップ—
- 17日(火) 昼~ 哲学講座「長谷川宏さんと読む『日本精神史 近代篇 下』」
- 17日(火) 夜 公民館開館70周年に向けた学習会「『くにたち公民館だより』を読むつどい」
- 22日(日) 昼 CINEVOX・シネマトーク『スタンド・バイ・ミー』
- 27日(金) 夜~ 文章創作/心のライティング「自分を知り、表現し、ともに分かち合う 文章創作ワークショップ」
- 29日(日) 朝~ 性教育講座「性を学ぶことはよりよく生きること~『包括的性教育』のススメ~ 模擬授業【思春期編】」
- 10月4日(金) 朝~ 子育て短歌入門講座「子育ての日々を三十一音で語り合おう」

講座の開催状況などに変更があった場合は、公民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知らせします。ご不明の点はお問合せください。
公民館 ☎ (572) 5141



▲講座等の案内

ひろば



スポーツ吹矢を体験しよう!

暑くても、屋内で涼しく楽しめ、ゲーム感覚で、心肺機能の向上にも役立つ二刀流。体験会に気楽に参加して下さい。費用は無料です。
日時 随時(予約をお願いします)
場所 体育館、公民館、福祉会館、北プラザ
連絡先 坂井090(249)9175

やさしい水彩の会作品展

NHK学園で水彩画を学ぶメンバーの9回目の作品展です。日頃の力作を展示して皆様のご来場をお待ちしております。
日時 9月20日(金)~27日(金)10時~18時
場所 公民館 市民交流ロビー
連絡先 溝口090(4627)1011

水泳「とびうお」会員募集

皆さん!健康維持、体力増進とストレス解消に温水プールで快適な汗を流しませんか。レベル別に公認コーチが親切に楽しく指導いたします。体験水泳可(無料)
日時 毎週火曜日 昼12時~2時
場所 総合体育館 室内プール
連絡先 横田042(571)6688

くにたち市民オーケストラ 第46回定期演奏会

エルガー「コケイン」モーツァルト交響曲第40番チャイコフスキー交響曲第6番 指揮 佐々木新平
入場料千円全席自由高校生以下無料
日時 9月29日(日) 昼2時開演
場所 東大和市民会館
連絡先 事務局080(546)9292

加害者としての戦争を語る会

長年、東南アジアの日本軍加害者について、現地で被害当事者から聞き取り調査をし、証言集をしてきたアジア・フォーラム横濱代表の吉池俊子さんが話す。無料。
日時 9月29日(日) 昼2時
場所 公民館 地下ホール
連絡先 龍野090(469)1094

くにたち国際友好会WING

9月の国際理解講座は、ニューヨークの国連本部でPKOなどを担当され、現在は一橋大学講師の中谷純江さんに、国連から見る世界についてお話しして頂きます。
日時 9月29日(日) 夜7時~9時
場所 公民館3F講座室&ZOOM
連絡先 西江070(902)7838

ジュニアソフトテニス講習会

プロコーチによる初心者から上級者までレベルに応じたレッスンです。ソフトテニス連盟。対象者中学生、高校生。参加費無料
申込締切9月13日(金)
日時 10月13日(日)9時~予備20日
場所 広場テニスコート
連絡先 芳賀090(2419)0169

〈サークル訪問395〉 ダンスセッション

その夜、地下ホールはいつもと違う異次元の世界が広がっていた。自由気ままに踊ったり演奏したり、その偶然性を楽しむダンスセッションの風景である。ドラム、サックス、木琴、リコーダー等、様々な楽器と突然発せられる言葉がない混ぜになって音が創り出される。それに合わせて20代から70代の身体が動き始める。しなやかに伸びやかな身体、飛び跳ねる身体、クネクネした身体、時に固まってしまったかのような身体……それらがいっつの間に共鳴し合い調和を創り出し一体化していくようだ。すべては常識から離れた空間の中で創り出されるダイナミックなダンス。

「1970年代に、寺山修司・小杉武久・霜田誠二などの巨匠がこのホールを幾度も使用したと、当時の『美術手帖』に記載されている。正にアンダーグラウンド芸術の歴史と魂が宿っている聖地といえよう。またメンバーのひとりは今は見かけない柔らかな明かりを作る照明器具、レトロなエンジ色のカーテン、踊るのに最適な板張りの美しい床、音の響きなどをあげ、こんなに素晴らしい空間はないと言う。今まで何気なく使っていた地下ホールが一気に神聖で特別な場所に見えてきた。

人間の言語を持つ前に身体を使い表現、伝達していたのだろう。踊ることで現代人が失った何かを表現し太古の人間に帰っていくのかもしれない。踊った後の皆さんの清々しくも優しい表情は、それを物語っているように思える。興味のある方は、ぜひダンスセッションの世界を覗いてみてほしい。身体が自然に動き出すに違いない。



聖地で踊る!

日時 毎月土、日のいずれか1回 夜6時~9時半
場所 公民館 地下ホール
連絡先 井上
tatarata2108@gmail.com
〈文・写真 高木 裕子〉